

全国高等学校PTA連合会・小社合同調査  
第3回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」結果より

# 動き出した保護者

角田浩子

キャリアガイダンス編集長

オープンキャンパスに来訪する高校生の4割が保護者同伴（小社「進学センサス」）。多くの大学・専門学校が保護者を重視せざるを得ない状況であることを裏付けるデータだった。小社「キャリアガイダンス」誌では2003年より、社団法人全国高等学校PTA連合会と合同で高校生の進路選択における保護者の意識や行動について調査を行ってきた。ここでは2007年秋に行った第3回調査の結果から明らかになった。高等教育機関にとってますます存在感を増す「保護者」と高校生の関係や、最近の保護者の行動と、その背景について報告する。

【調査概要】

- 調査実施者 社団法人全国高等学校PTA連合会／株式会社リクルート
- 調査対象 全国の高校2年生をもつ保護者とその子ども2080組(全国高等学校PTA連合会より依頼した8都道府県1市の公立高校26校、第2学年2クラス分の高校生と保護者)
- 調査期間 平成19年10月1日～10月15日
- 調査方法 ①高校生：ホームルームにてアンケートに回答  
②保護者：高校生から保護者へアンケートを手渡し  
③学級担任が高校生と保護者分を取りまとめ、その後学校責任者が学校分として返送
- 回収数 高校生1830(男子 858 女子 944 /無効 28)  
保護者1587(父親 235 母親 1287 その他 19 /無効 46)

【回答者プロフィール】

- 高校生
  - ・性別：男子 47.6% 女子 52.4%
  - ・高校タイプ：普通科 58.3% 専門学科 34.1% 総合学科 7.6%
  - ・高校卒業後の希望進路：大学・短大進学 59.3% 専門学校進学 14.2% 就職 22.6% フリーター 0.3% 留学 0.2% その他 1.6% (無回答 1.9%)
  - ・地域分布：北海道 11.9% 宮城県 12.3% 栃木県 12.0% 東京都 9.3% 新潟県 11.7% 静岡県 11.4% 大阪府 7.3% 香川県 11.2% 福岡県 12.9%
- 保護者
  - ・続柄：父親 15.2% 母親 83.5% その他 1.2%
  - ・地域分布：北海道 10.6% 宮城県 12.3% 栃木県 9.9% 東京都 10.9% 新潟県 11.9% 静岡県 12.2% 大阪府 6.9% 香川県 12.5% 福岡県 12.7%

## 1 親子コミュニケーションの実態

### 知っている「つもり」の親

高卒後の進路について、高校2年生は保護者とどれぐらい話しているだろうか。高校生と保護者の双方にたずねてみた(図1)。

高校生の回答は「よく話をする」が15%とそれほど多くないが、「たまに話をする」を合わせると75%。男女別では女子のほうが、希望進路別では大短希望者が専門学校希望者より話していることがわかった。一方、保護者の回答ではよく話をするが25%、「たまに話をする」を含めると91%で、どちらも高校生の回答より多く、父親より母親のほうが話をするが多くなっている。

さらに、高校生の希望する進路についてどれぐらいの保護者が知っているか、親子それぞれの認識を聞いた(図2)。まず高校生の回答を見ると、保護者が自分の進路希望を「よく知っている」という回答は39%で、「少し知っている」を合わせると83%。一方保護者は、子どもの進路希望を「よく知っている」「少し知っている」を合わせると92%。高校生の認識以上に保護者は「知っている」つもりようだ。こちらも、父親より母親のほうが「よく知っている」と答えている。

一般に仲良し親子が増えているといわれ、この調査でもおおむね親子のコミュニケーションは活発という結果になっているが、保護者のほうが子どもよりも「現状を肯定的に認識している」ことが見えてくる。

図1 進路について生徒と保護者は話をしているか

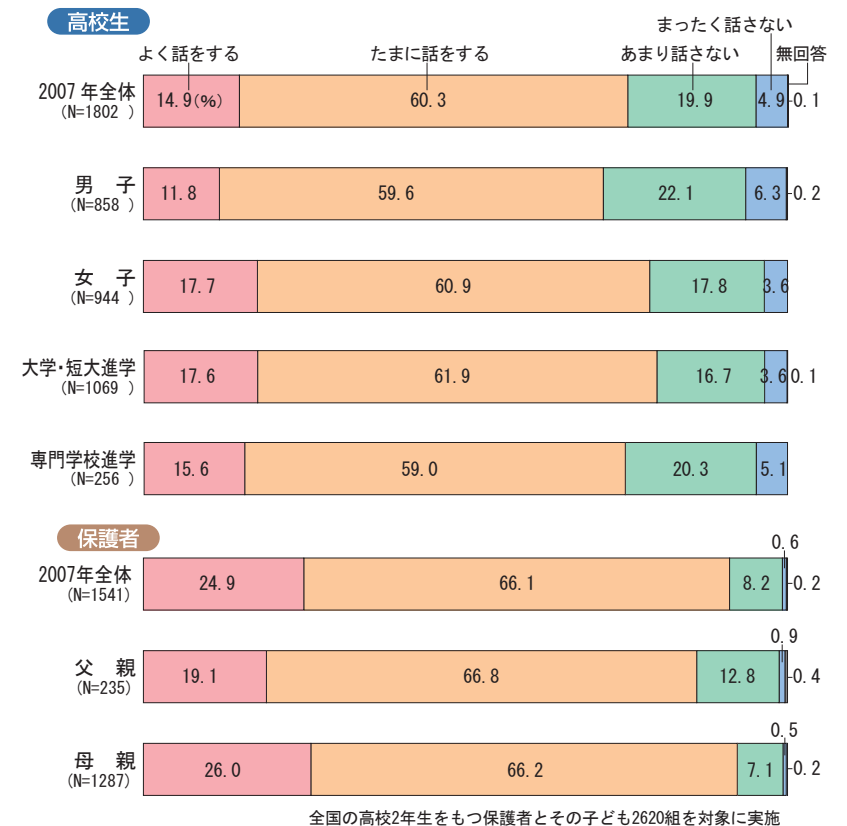


図2 生徒の希望進路を保護者は知っているか

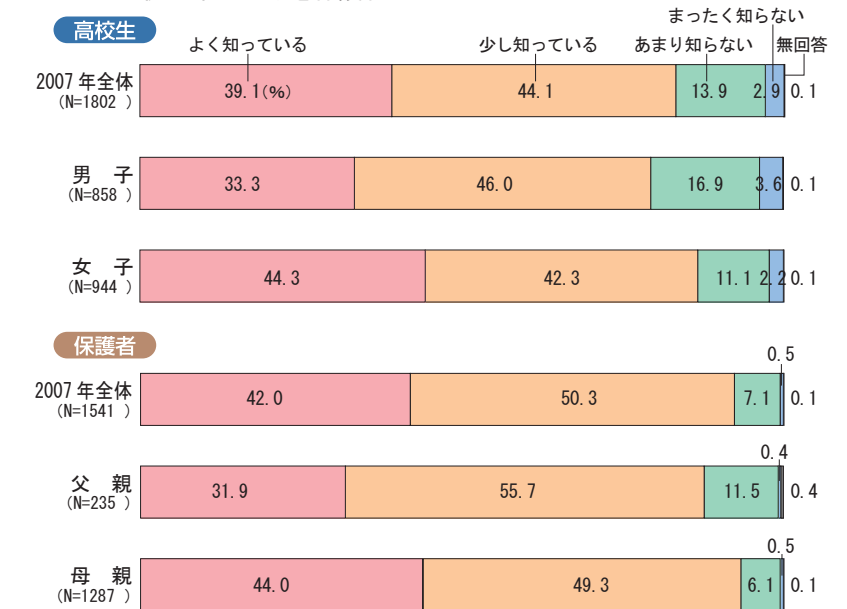


図3 生徒の進路選択の悩みや不安を保護者は知っているか

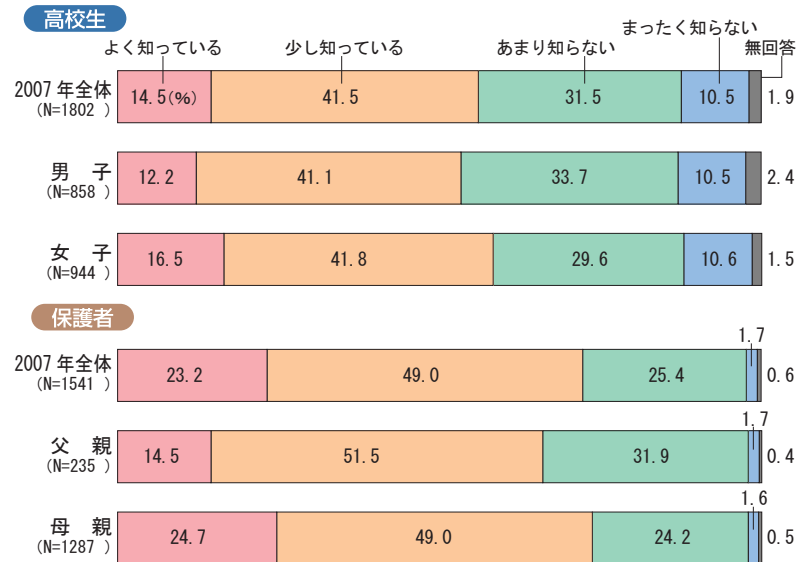


図4 生徒は進路について誰と相談しているか (複数回答)

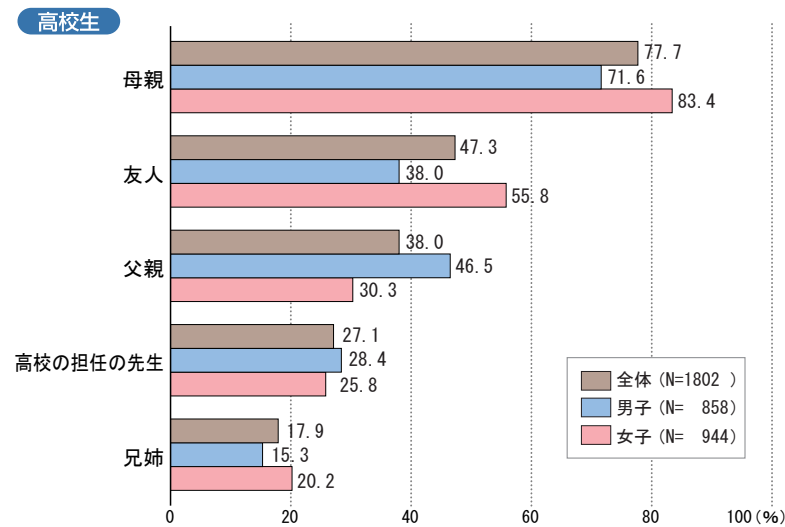
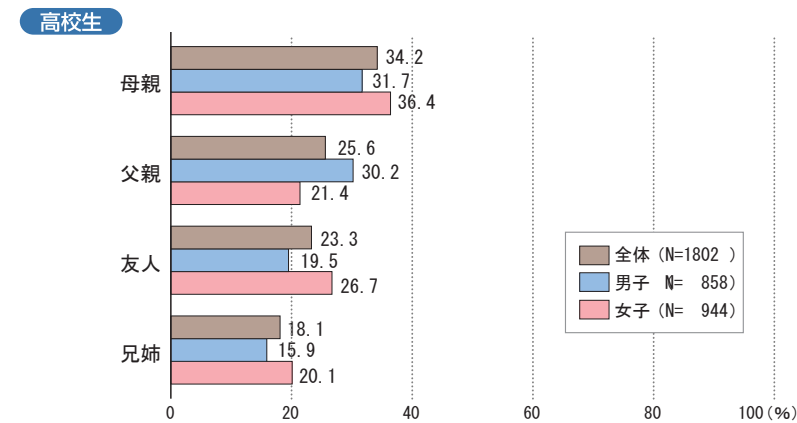


図5 生徒は進路について誰(何)から影響を受けているか (複数回答)



それがさらにはっきりするのが、高校生が持つ進路選択の悩みや不安といった「本心」についての質問だ(図3)。

高校生にたずねると、保護者が自分の悩みや不安を「よく知っている」という回答は15%。「少し知っている」と合わせると56%だった。一方、保護者の72%は子どもの悩みや不安を「よく知っている」「少し知っている」と回答しており、前頁の2項目同様、保護者の回答率が高校生より高くなっているとともに、その差が開いていることがわかる。「話しているけれど深い話はしていない」そんな親子が少なからず存在しているといえそうだ。

1番の相談相手は「母親」

次 | 話し  
ているかを高校生に質問したところ、最も多かったのは「母親」で78%が回答し、圧倒的に1位だ(図4)。「友人」47%、「父親」38%、「高校の担任の先生」27%がこれに続く。男女とも最多は「母親」だが、男子は「父親」が「友人」を上回って2番目に多い。

ちなみに、一番の相談相手を1人選んでもらったところ、上位はやはり「母親」「友人」「父親」という順に並んだ。そう思う理由もたずねると、「母親」を選んだ人は「いつでも相談でき、自分のことを一番に理解してくれているから」「ちゃんと話を聞いてくれる」など、多くが身近さや相談しやすさをあげた。「父親」を選んだ人からは、「経験があるので母親より父親」「信頼できる人であり、父親の考えには間違いがないと思っている」などのコメントがあり、知識や経験

への信頼感がうかがえる。

一方、進路を考えるうえで影響を受ける人・ものを高校生にたずねたところ、やはり最多は「母親」の34%となった(図5)。2位は「進路選択の相談相手」では3位だった「父親」で、3位が「友人」となった。一番影響を受ける人・ものとその理由もあげてもらうと、やはり1位

は「母親」で、「一番進路について話をするから」というように日頃の会話による影響が大きい。また、2位の「父親」については、「がんばっている姿を見てやる気をもろう」「反面教師」など、父親の背中がよくも悪くも影響を及ぼすことがわかる。「学費などの経済面を支えてくれるから」など決裁者としての影

響力もあるようだ。

高校生が進路を考える際、相談するのも影響を受けるのも、やはり「保護者」なのである。それでは保護者は子どもにどんな影響を与えているのだろうか。次章より両者の意識に入っていく。

2 子どもの不安 親の不安

話している子どもほど「楽しい」

高校生に進路を考える時の気持ちを聞いたところ、最も多かったのは「自分がどうなるか不安になる」で、49%と半数近くが回答した(図6)。「自分の可能性が広がるようで楽しい」という高校生は24%で「不安になる」の半分以下で、男女別では女子に「不安」が多くなっている。

現代にあって自分の将来に不安を抱くのは当然ではないかという見方もあるだろうが、「進路について保護

者と話す頻度」別の結果をご覧くださいと、違う面が見えてくるのではないだろうか。保護者と話をするほど楽しい」と感じる高校生の割合が如実に大きくなっているのだ。

「まったく話さない」という層の「楽しい」はたった1割である。もっとも

図6 進路を考える時、生徒はどんな気持ちになるか

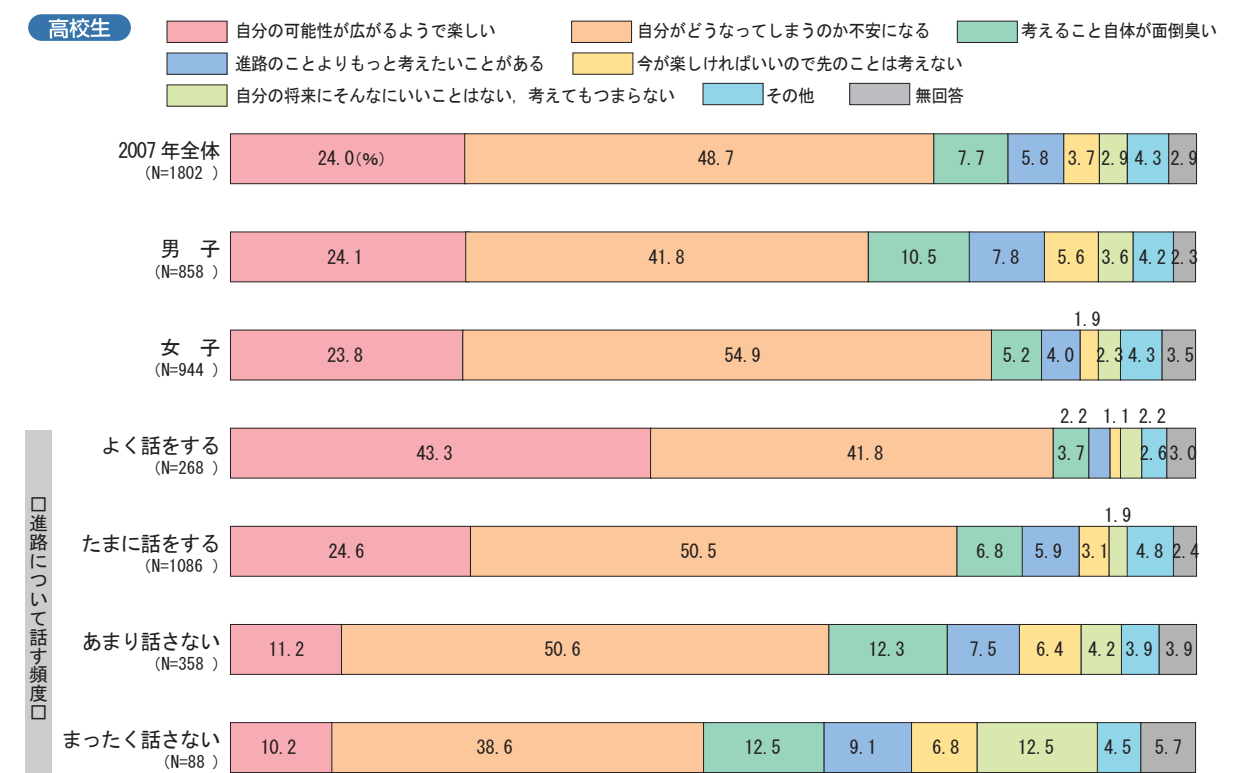
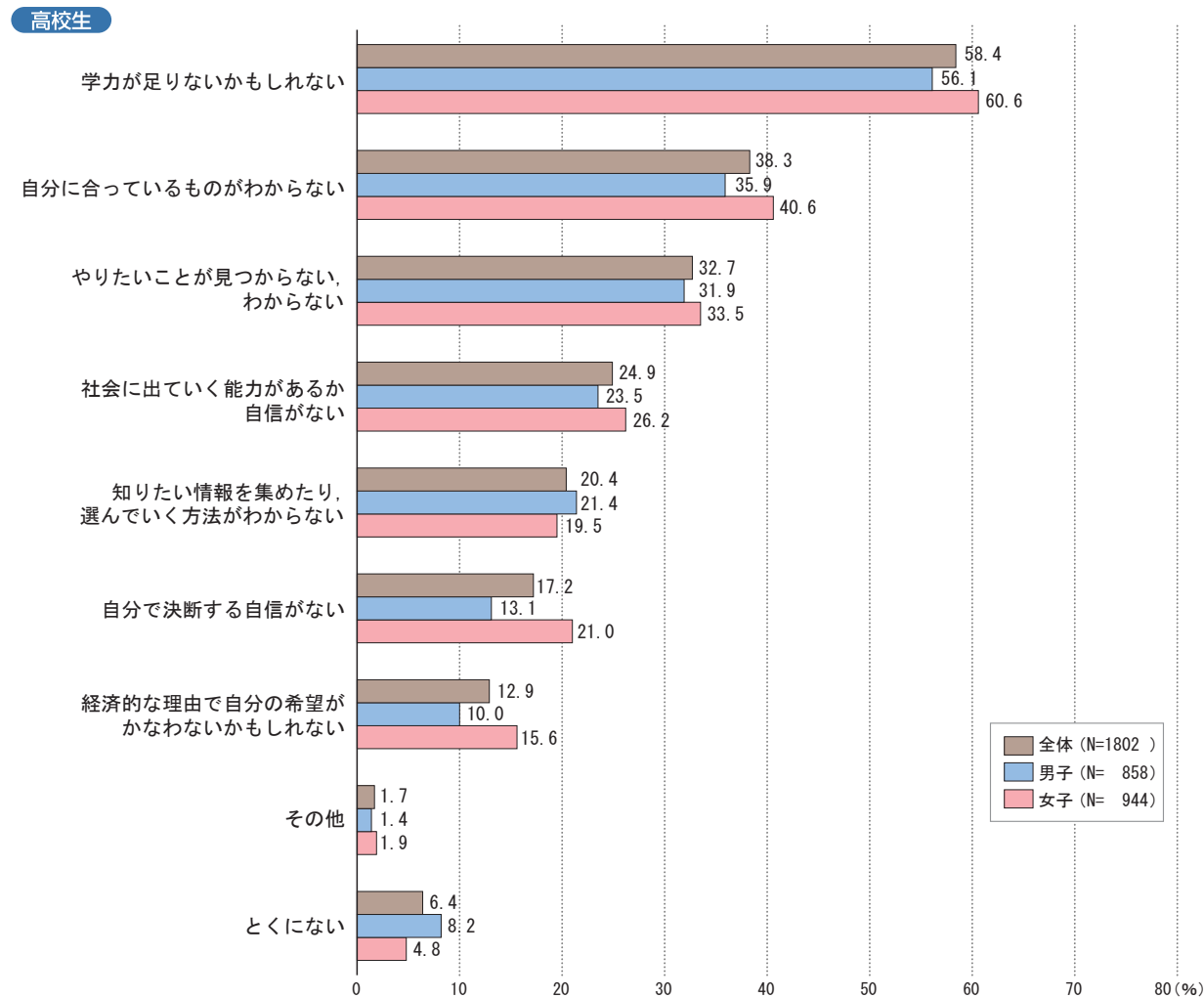


図7 進路選択に関してどんなことが気がかかりか（複数回答）



「不安」も39%と平均を下回っており、目立つのは「考えること自体が面倒臭い」「自分の将来にそんなにいいことはない、考えてもつまらない」（ともに13%）など、自分の進路に目を向けない無気力で厭世的な回答の多さだ。ここで、親子コミュニケーションの量は子どもの進路意識や価値観に大きな影響を与えていることが確認できる。また、「不安」は少なくとも将来へ向かうベクトルのもとで抱く感情といえるだろう。

**「自信がない」「やりたいことがわからない」高校生**

次に、進路選択に関する気掛かりの内容について高校生に質問したところ、最多は「学力が足りないかもしれない」で58%が回答した(図7)。

大学全入時代といわれるなか、学力についての気掛かりは意外な気もするが、ものごころついて以来「学力低下」を問題視されてきた世代であること、現実には競争のある進学先は依然難関であることから当然かも

しれない。また「自分に合っているものがわからない」(38%)「やりたいことが見つからない、わからない」(33%)が続き、4位は「社会に出ていく能力があるか自信がない」(25%)だった。

高校生の進路選択に関しての気掛かりは、「進学するための力」「社会に出るための力」が自分の身につけていないという自信のなさのほか、自分の適性や目標が見えないという、自己理解の不透明さにあるようだ。これらが彼らの進路の不安の中身といっ

「社会の厳しさ」が連日伝えられる一方、「自分さがしをすすめる風潮、「やりたいことを仕事にしなければいけない」といったプレッシャーもいまの若者たちには当然ありそうだ。

この部分に働きかけることが、家庭や学校における「キャリア教育」の役割と思われるのがどうだろう。

**保護者のほうが大きい「未来社会への不安」**

そこで聞いたのが「未来社会への認識」だ。これからの社会は高校生にとって好ましいと思うか、親子それぞれにたずねた(図8)。高校生の回答では、「とても好ましい社会だ」と「まあまあ好ましい社会だ」の合計が34%「あまり好ましい社会ではない」「非常に好ましくない社会だ」の合計59%を大きく下回った。

さらに保護者の回答でも「とても好ましい社会だ」と「まあまあ好ましい社

会だ」の合計が高校生より低い22%。「あまり好ましい社会ではない」と「非常に好ましくない社会だ」の合計は70%と高校生を上回った。大人のほうが未来の社会に対して断然ネガティブな認識を持っているのだ。

またそう思う理由を高校生・保護者双方に書いてもらったところ、「景気は回復してきている」「就職しやすいと聞いた」といった、最近の雇用環境の改善が「好ましい」理由にあげられていたものの、圧倒的に多かったのが「格差社会」についての記述である。

高校生では「格差が広がっていくから」好ましくないという記述がある一方、「格差社会は大変だけれどお金持ちになれるから」好ましいと書くものもある。保護者も、「力のあるもの、努力するものは認められるので」好ましいとする記述もあれば、「格差が広がっていて、本人の努力ではどうにもならない部分がある」という人もいる。多くの親子が「未来も力があるもの

けが認められる厳しい社会である」と認識し、そのうえで自分にとって、あるいは自分の子どもにとって好ましいかどうかを判断している。

保護者にさらに目立つのは、「一生懸命だったり真面目なだけでは生きていけない社会だから」といった努力そのものの無効を訴える記述や、「親自身も毎日不安な将来を思っている」「年金、格差、環境のどれをとっても子どもに夢を語って聞かせてやれない」という、親自身の不安の表明だ。

現代は、高校生の親である大人が未来への無力感・不安を抱える時代なのだ。それが子どもに伝わらないわけがないだろう。最後に紹介したフリーアンサーはこう続く。「また、子どもも夢を語れない」。

**目立つ親の自信のなさ**

そんな保護者たちが子どもの進路選択についてアドバイスすることを難

図8 これからの社会は高校生にとって好ましいか

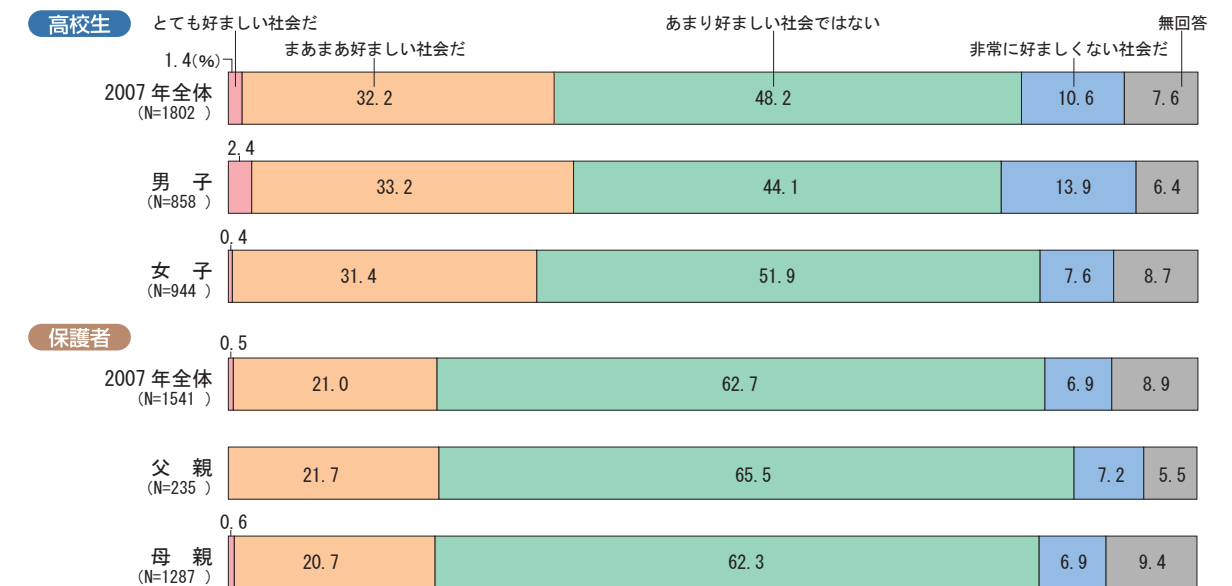


図9 高校生の進路選択へのアドバイスを難しいと感じるか

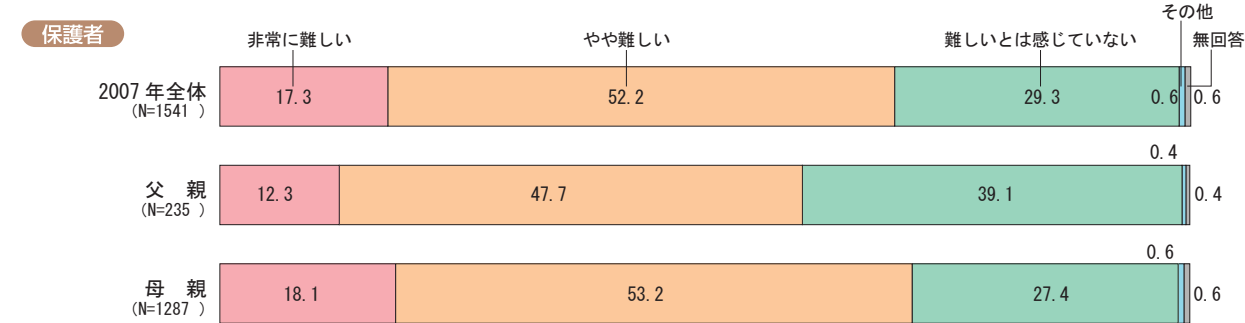
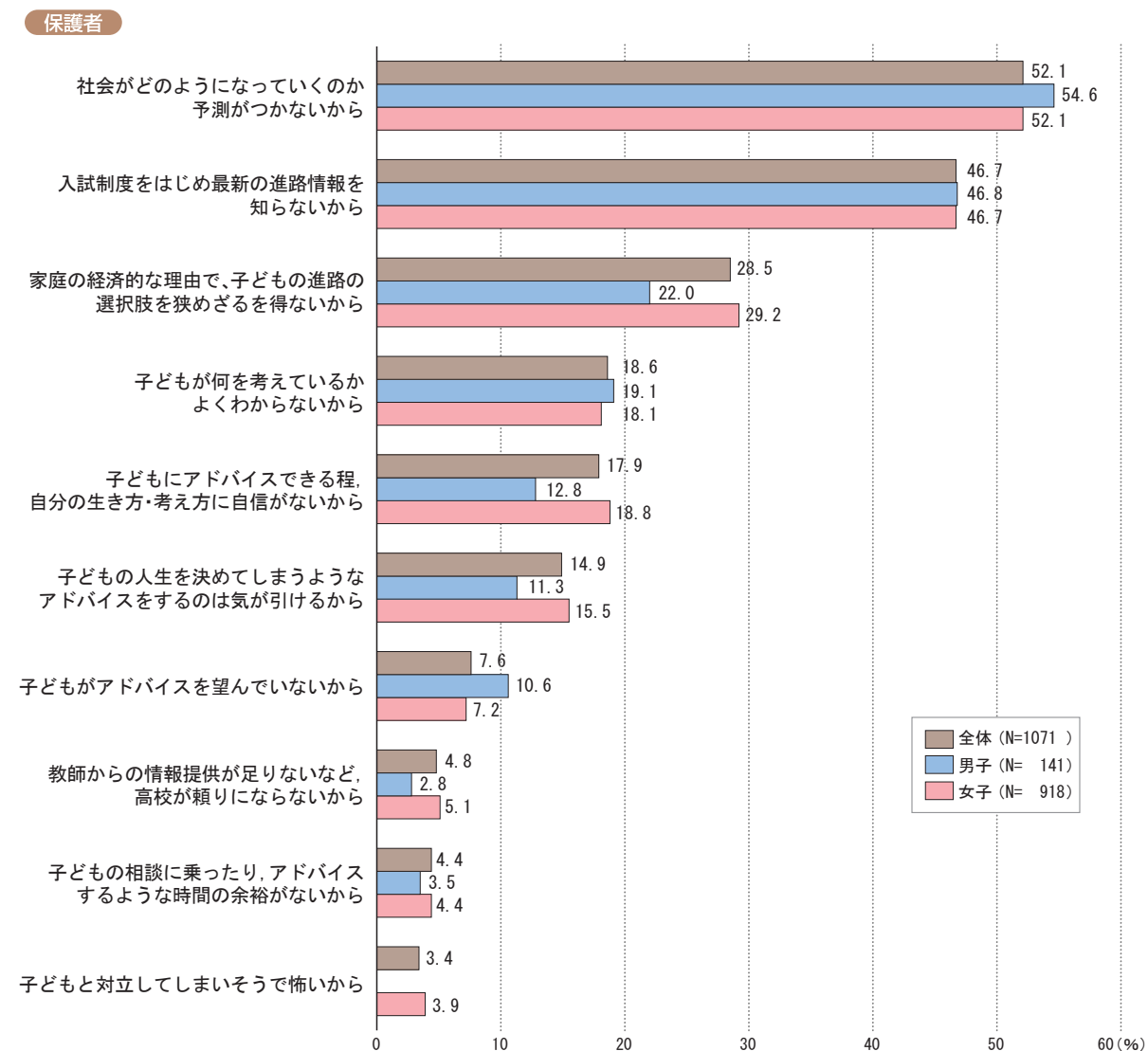


図10 進路選択のアドバイスが難しいと感じる要因は何か (複数回答)



しいと感じるのは当然だろう。保護者の17%が「非常に難しい」と回答しており(図9)。「やや難しい」と合わせると70%になる。高校生の進路の相談相手・影響源1位の母親は父親より10ポイント以上も「難しい」が多く、より困難さを感じている。

また、難しいと感じる保護者にその要因をたずねると(図10)、「社会がどのようになっていくのかわからない」が最多で52%、次が「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らない」で47%、「家庭の経済的な理由で、子どもの進路の選択肢を狭めざるを得ないから」(29%)が続く。親自身に将来の見通しがなく、現在の子どもの進路環境に疎く、経済的な課題を抱えていることが見えてくる。また、父親には「子どもが何を考えているのかわからない」「子どもがアドバイスを望んでいない」など親子の関わり方の問題が母親に比べて多めとなっているのに対し、母親は「アドバイスできる程自分の生き方・考え方に自信がない」「子どもの人生を決めてしまうようなアドバイスをするのは気が引ける」などが多めで、改めて自信のなさがかがえた。

**だから子どもには「安定」を**

そんな保護者たちは子どもにどんな将来を望んでいるだろう。

保護者に対して子どもに就いてほしい職業があるか聞いたところ、「ある」という回答は21%。さらに「具体的な職業を選んでもらったところ、子どもが男子・女子とも「公務員」がトップで、どちらも2位以下を大きく引き離

図11 保護者は子どもにどんな職業に就いてほしいか

男子 (N=136)	(単位 %)	女子 (N=187)	(単位 %)
1 公務員(国家・地方)	36.0	1 公務員(国家・地方)	24.6
2 会社員	8.1	2 看護師	12.8
2 技術者・研究者	8.1	3 薬剤師	10.2
4 医師・歯科医師・獣医	7.4	4 教師	7.0
5 教師	5.1	5 保育士・幼稚園教諭	5.9
5 製造・加工・組立などのモノづくり	5.1	6 事務	5.3
7 薬剤師	3.7	7 技術者・研究者	4.3
8 社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	2.9	8 医師・歯科医師・獣医	3.7
9 弁護士・法律関連	2.2	9 社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	3.2
9 整備士	2.2	9 整備士	2.2
9 看護師	2.2	10 フライアテンダント・グランドスタッフ	2.1

- 公務員：子どもの希望や資質に合っているし、安定しているから(静岡・母親、女子)
- 公務員：人の役に立つ仕事に就いてほしい。安定。性格的にコツコツ、きっちり型なので(大阪・母親、男子)
- 看護師：これから先も絶対になくならず、なおかつ必要性が高いので(新潟・母親、女子)
- 看護師：やりがいがあり、求人が多い(東京・母親、男子)
- 薬剤師：なれば価値があり、やりがいがある。女性のわりに高収入なので、安定した生活が送れる(栃木・母親、女子)
- 薬剤師：高収入で再就職も可能で、年齢も問われない(香川・母親、女子)
- 教師：子ども(小学生時代)のころからの希望だった(東京・母親、女子)
- 教師：安定した職業・やりがいのある職業だと思うから(新潟・母親、女子)
- 技術者・研究者：求人情報を見ても、技術者系はとくに優遇されている傾向にある(福岡・母親、男子)
- 技術者・研究者：創造性が豊かで、自分のペースで仕事ができる。研究は充実感が得られる(静岡・父親、女子)
- 医師など：医師不足といわれる今、社会に貢献できるのではないかと。子どもに向いているように思う(新潟・母親、女子)
- 医師など：開業医をしているので(新潟・母親、男子)
- 会社員：安定している会社に勤めてほしい(福岡・母親、男子)
- 会社員：大企業なら公務員にも負けない魅力があるから(大阪・父親、男子)

※フリーコメント末尾のカッコ内の内容は下記のとおりです  
保護者コメント(都道府県・続柄、子どもの性別)

して突出した割合となった(図11)。2位以下には、男子は「会社員」「技術者・研究者」「医師等」「教師」と手堅い職業が、女子は「看護師」「薬剤師」「教師」と国家資格が必要な職業が並んだ。

これらの職業に就いてほしい理由を見ると、公務員の「将来安定しているから」「倒産することがないから」、会社員の「大企業なら公務員に負け

ない魅力がある」、技術者の「求人情報を見ても優遇されている」、看護師の「これから先も絶対になくならない」「求人が多い」、薬剤師の「高収入で再就職も可能」など、雇用や収入の安定をあげるコメントが多くなっている。これらも、親の不安の裏返しといえそうだ。

### 3 保護者の行動

#### 現在の入試制度と進学費用に関心

次に、子どもの進学に際しての情報感度や行動について探ってみた。

まず重要だと思う情報を選んでもらったところ(図12)、上位に来たのは「現在の入試制度の仕組み」「進学費用」「将来の職業との関連」などで、この3つは半数以上の保護者が重要だと認識していた。

前回調査とパーセンテージを比較してみると、目立って増加したのは「進学費用」(44%→51%)、「現在の入試制度の仕組み」(51%→56%)。逆に減少したのは「資格取得の状況」(34%→24%)、「就職の状況」(40%→34%)となっている。傾向としては、就職や資格取得といった進学後のことよりも、進学費用や入試制度といった進学前のことに関心が集まってきたといえるかもしれない。

もともと子どもの進学希望別に見れば、専門学校進学希望者の保護者では、「資格取得の状況」は依然高く、前回よりも微増している。

前段までの調査結果をふまえても、子どもにアドバイスするためにも、最新の入試制度について知っておきたい、実際にかかる進学費用を家庭の経済事情と照らし合わせたい、将来安定した職業につながるのかどうかを知りたいという親の気持ちが見えてく

図12 保護者は進学に際してどんな情報を必要としているか(複数回答)

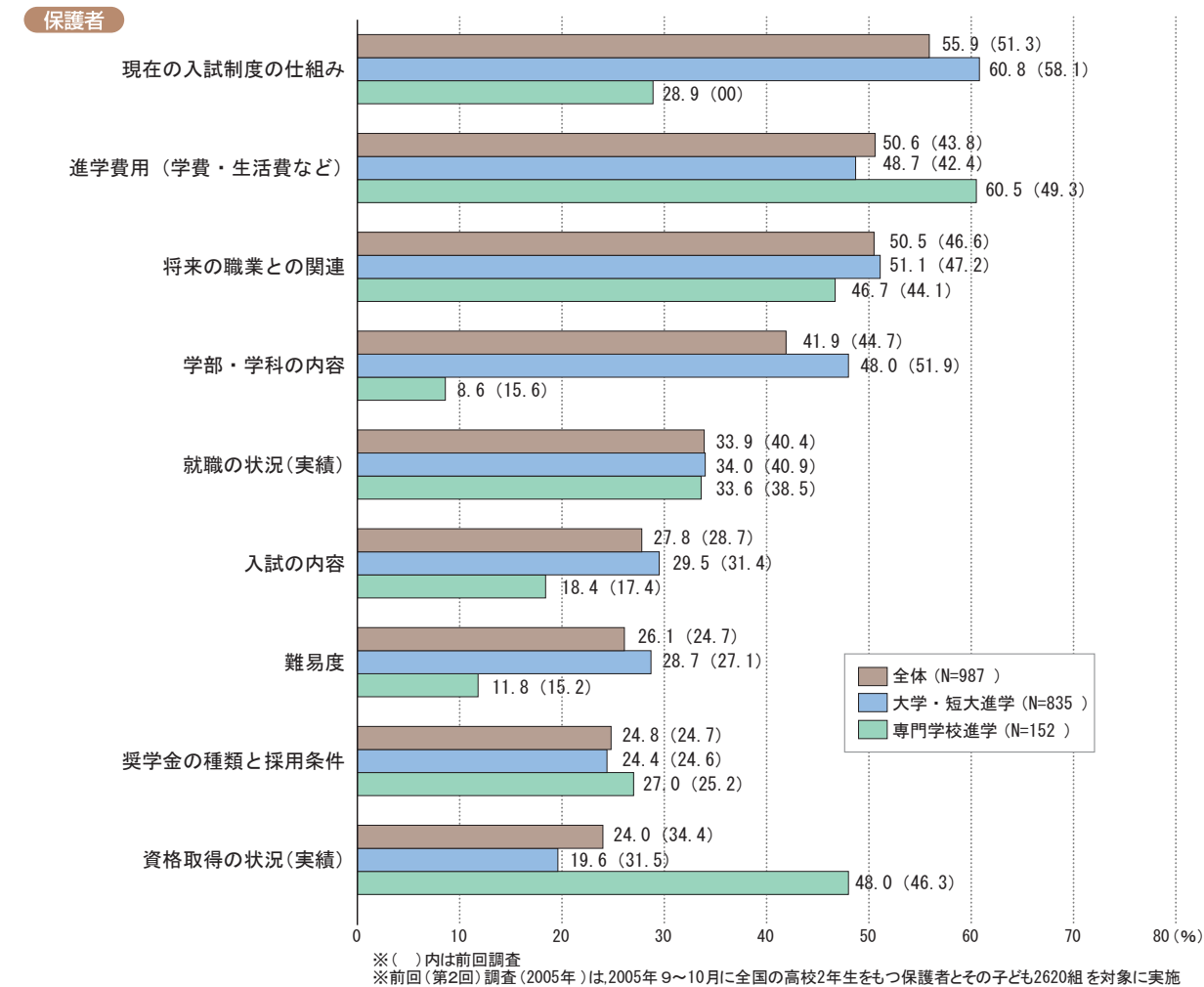
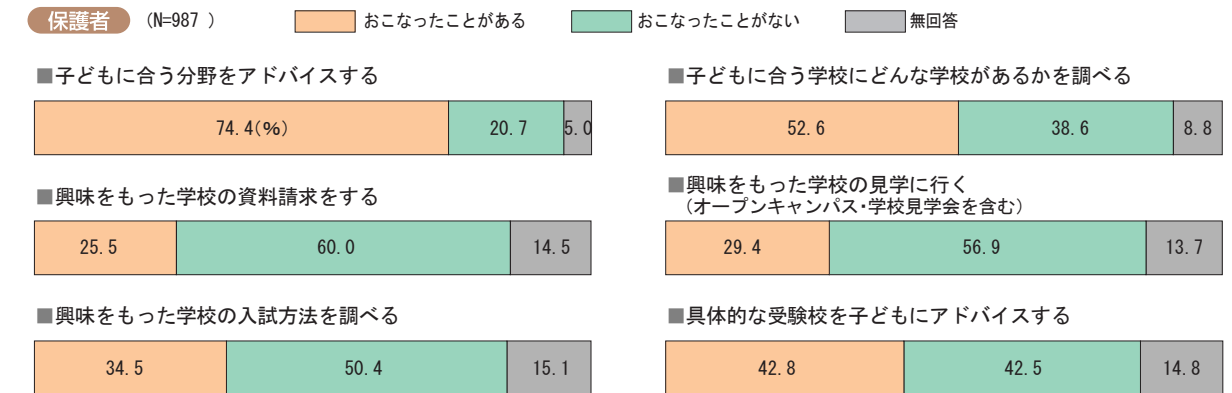


図13 保護者は高校生の進路選択行動にどのように関わっているか



るといってよいのではないだろうか。

#### 自ら行動し始めた保護者たち

こんな不安や情報枯渇感を抱えた保護者が、子どもの進路選択に自ら乗り出し始めているのも当然なのかもしれない。今回初めて、子どもが進学希望である保護者に、自身が子どもの進路選択行動にどのように関わっているのかをたずねてみた(図13)。

6項目中最も高かったのは「子どもに合う分野をアドバイスする」で、74%の保護者が行っていた。また「具体的な受験校を子どもにアドバイスする」も43%が行っている。前段の調査結果では「難しい」と感じている保護者が多かった「子どもへのアドバイス」だが、実際には進学分野や具体的な学校選択についてアドバイスしていることがわかる。

2番目に多かったのは「子どもに合う学校にどんな学校があるかを調べる」で53%。子どもに調べさせるのではなく自ら「調べる」という行為を過半数が行っているというこのデータから、やはり今の保護者が、自分自身が

現在の情報を知らなければならないと考え、実際行動に移していることがうかがえる。

重要と考える情報の1位にあがっていた「入試」についても自ら「調べる」保護者は35%にのぼっている。

また、この調査では学校見学に「行く」保護者は3割にとどまっているが、調査時点では高校2年生の保護者の回答であり、「保護者の学校見学」は今後ごく普通の光景となりそうなのは間違いないだろう。受け入れ側の大学・専門学校も当然保護者に対しての案内や情報提供を意識したプログラム作成が必要になるのではないかと。

このように保護者の進路情報収集行動は、押しなべて活発になりつつある。学校の資料請求もすでに4人に1人が行っていることを見ると、「保護者への情報提供」は今後高等教育機関の大きなテーマであるといえるだろう。

また、本調査全般において父親は影の薄い印象があるが、本設問では母親のデータとほとんど遜色なかった。こうした具体的な行動で子どもの進路選択を支える父親が今後ますます増える可能性もあるのではないかと。

#### 高校はもっと進路に関する情報提供を

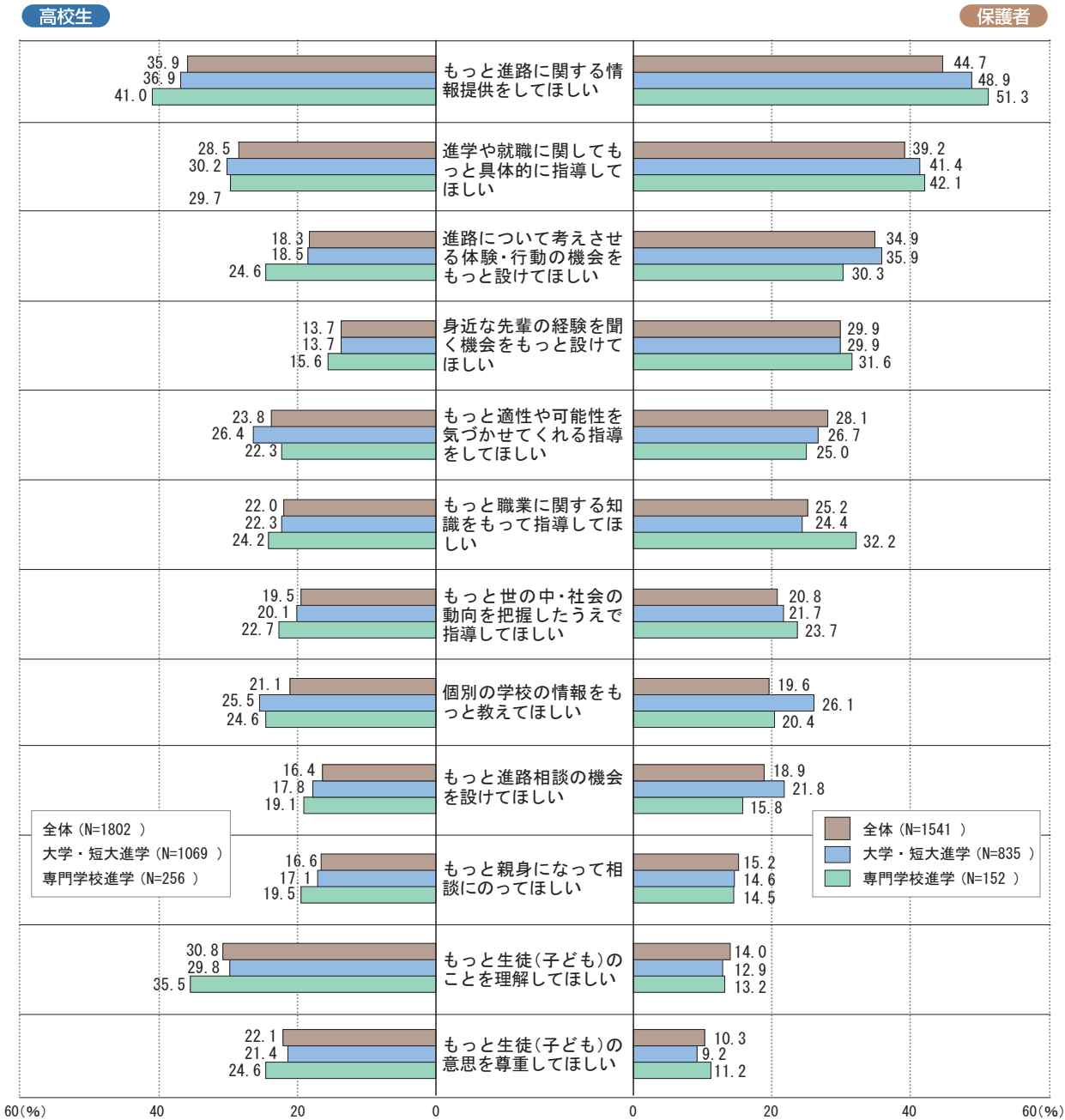
情報への枯渇感、高校の進路指導についての要望についても表れている(図14)。大学・短大進学希望者・専門学校進学希望者両者の保護者とも、最も要望しているのは「進路に関する情報提供をしてほしい」だった。とくに専門学校進学希望者の親では過半数となっている。ついで両者とも2位は「進学や就職に関してもっと具体的に指導してほしい」だ。

大学進学希望者の親では、「進路について考えさせる体験・行動の機会をもっと設けてほしい」「身近な先輩の経験を聞く機会をもっと設けてほしい」が続き、高校進路指導に対して、単なる情報提供にとどまらない体験の機会を欲していることがわかる。

一方、専門学校進学希望者の保護者も同様に体験・行動の機会への要望が高いが、「もっと職業に関する知識をもって指導してほしい」が大学進学希望者の親より高くなっているのが目立つ。

キャリア教育的な指導が、大学進学・

図14 保護者は進学に際してどんな情報を必要としているか（複数回答）



専門学校進学問わず求められているといえそうだ。

**保護者対象ガイダンスの可能性**

さらに保護者向けとして高校に実施・充実してほしいものをたずねてみ

た(図15)。全体順位では進学先選び「入試制度・動向」のガイダンスが1位、2位を占めたが、希望進路によって順位に大きな違いが見られた。

大短進学希望者の保護者は、僅差ながら1位が「入試制度・動向」で、「進学先選び」は2位。どちらも半数の保護

者が希望している。多様化、複雑化する入試と、変化の激しい大学・学部の内容について、保護者の多くは何かの情報やアドバイスを求めているようだ。

専門学校進学希望者の保護者では「進学先選び」「入試制度・動向」のほ

か「雇用環境」が上位となった。

ところでこの設問では無回答が多かったことも特徴である。全体で17%、大学進学希望では13%、専門学校進学希望では18%にのぼっている。これらは高校に実施してほしいとは思っていない、高校に期待していない層と見ることもできるのではないかと。保護者の情報渴望感を考えると、実施主体は高校以外でもよいのかもしれない。

今回の調査では、高校生の進路選択における重要な存在である保護者

の意識と行動を見てきた。

「Monster Parent」と称されたり、その行動が批判の対象になりつつある保護者。一方、お受験ブームでは合格した親子が勝者としてもはやされている。社会全体が「親」の行動に注目するようになった。

最近ではオープンキャンパスだけではなく、就職ガイダンスで大学生の子どもに同伴する姿も報道され話題を呼んでいる。しかし、背景には、変化の激しい現代にあってその情報が欠けていると自覚している保護者たち自

身の「情報の枯渇感」「社会人としての不安」「親としての自信のなさ」「子どもの将来の安定への願い」があると言っ

てよいだろう。「子どもとまったく同じだけの情報がほしいんです」と都立進学校の保護者が進路指導担当教師に訴えたと聞く。保護者に対してどんな働きかけをしていけばよいのか、本格的に考える時期となった。

図15 高校生の進路選択のために、保護者向けに充実してほしいこと（複数回答）

